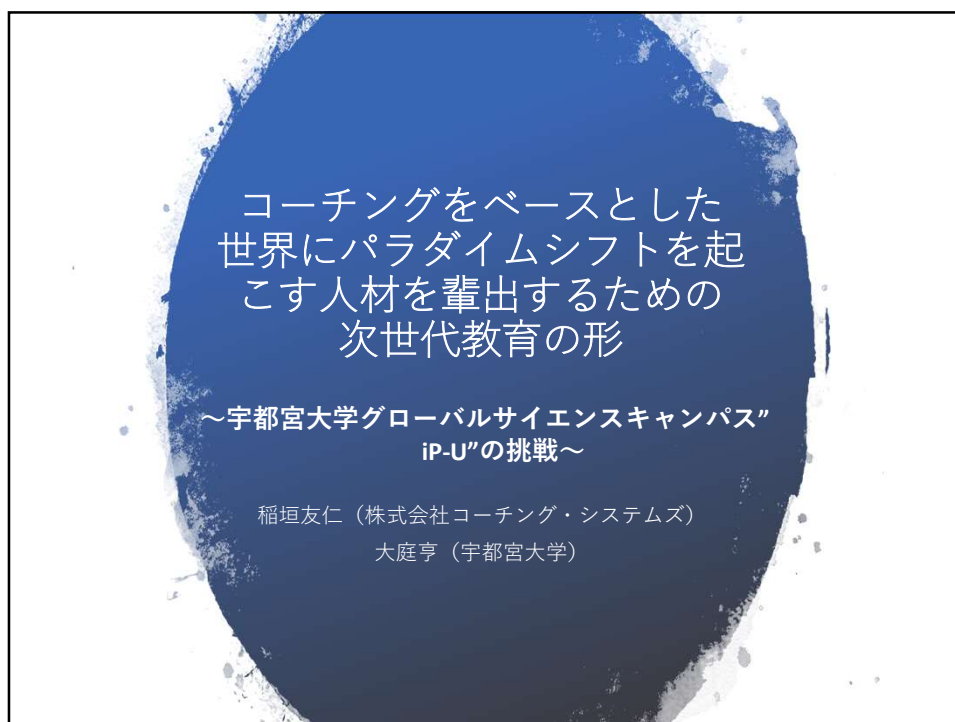




1



宇都宮大学
UTSUNOMIYA UNIVERSITY





株式会社コーチング・システムズ

共創コーチング特論

2008年授業スタート～継続中

2



共創コーチ養成スクール

Co-Creative Coach Training School

国際規格として、世界から認められたコーチングスクール



共創コーチ®養成スクール (Co-Creative Coach Training School) は、コーチング業界世界最大の会員数を持つ「国際コーチ連盟(ICF)」より、コーチ育成基準を満たす高度なコーチ育成プログラムとしてACTP (Accredited Coach Training Program)に認定されました。

ACTP
日本で
4社目
認定

2014年にスクールをスタートし、2018年6月にACTP認可。
現在、400名を超える受講者

3

君が未来を切り拓く！

～ 宇大の科学人材育成プログラム (iP-U) ～




共創コーチング®



宇都宮大学
UTSUNOMIYA UNIVERSITY

4

②評価基準の開発状況



● 「5つの基盤的能力」

- ・ 選抜と育成の基本方針
- ・ カリキュラムを整合化

● 一次選抜後の育成

- ・ コーチングで意識化・習慣化
- ・ 振り返り（各授業，毎月）
- ・ 授業等での啓発
- ・ アクティブラーニングで訓練
- ・ 受講者間での会話からの気づき

● 二次選抜後の育成

- ・ コーチングで啓発（個人，グループ）
- ・ 振り返り（各授業，毎月，3ヶ月毎）
- ・ 教員，T Aとの会話からの気づき

「5つの基盤的能力」

能力	具体的内容
国際的 巻き込み力	英語で自分の研究への協力を依頼 できるようになる。
執着力	目標達成に対して強い意欲と執着 心をもっている。
コツコツカ	目標や時間を管理でき，気分によ り左右されない。少しずつ継続的に実 行できる。
未来創造力	多くの人々を幸せにするビジョン を創り出すことができる。
発想力	多面的な視点を元に，本質的なア イディアを考え出すことができる。

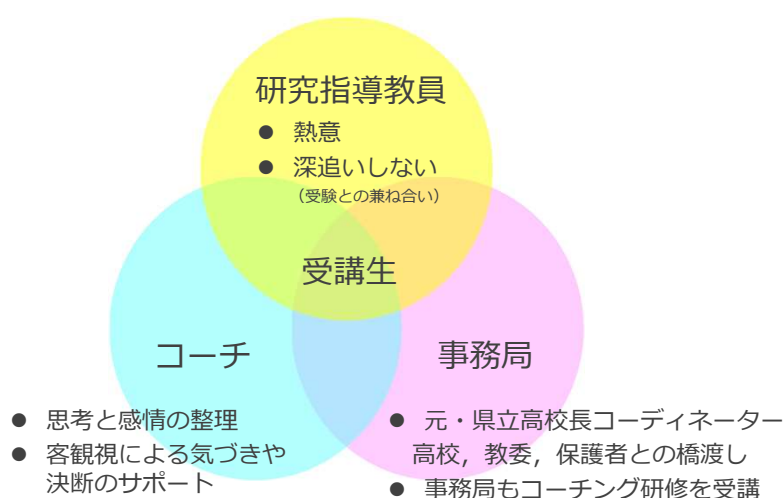


グループコーチング

5

教育プログラム開発における効果的な取組事例

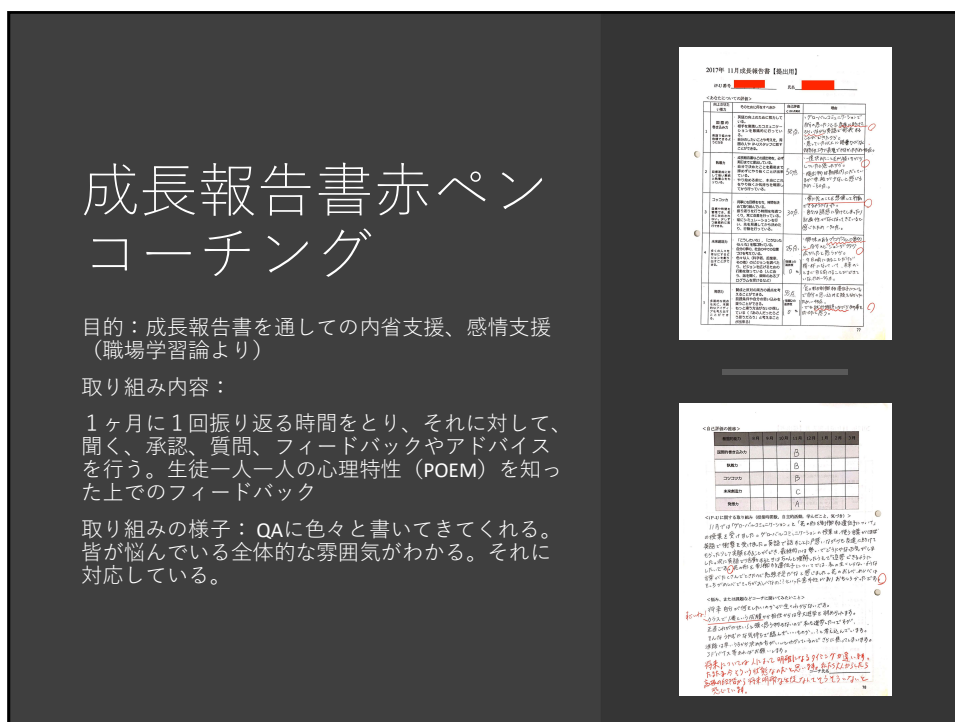
「共感的環境」 + 「コーチング」 ……功を奏した指導体制



6



7



8

[illegible]

心理特性 (POEM)

[illegible]

データが語る 子どもの実態



- 河村茂雄（著）
- 図書文化
- 2007年4月

COACHING SYSTEMS

11

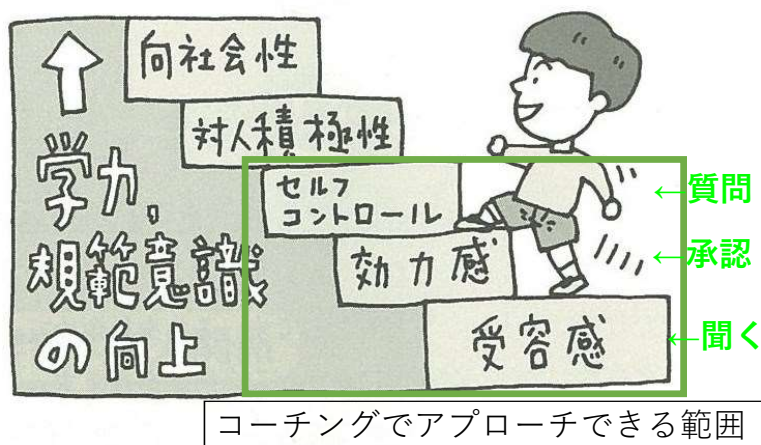
心理・社会的な発達をみる心理特（POEM）

受容感	両親、教師、友達といった周りの人から、どれだけ自分の存在が受け入れられているかを感じている程度。本人が受け取る感じ方であり、親や先生が想っている程度と異なる場合がある。
効力感	ものごとにトライするときの「うまくいきそうだ」「きっとできる」といった実感や自信。効力感が低いと、取り組む前から「どうせやってもだめだ」と思ってチャレンジできない。
セルフコントロール	「～がしたい」「～が食べたい」「もう～をやめたい」といった欲求を、自分でコントロールして、抑えたり、もう少しがんばってみたりできる力。我慢強さ、忍耐強さ、欲求不満耐性ということ。
不安傾向	ここでの不安は、何か特定の者に対して不安であるということではなく、なんとなく漠然とした恐怖心や心配といった気持ちのこと。この不安がどの程度強いかわかることを示す。これが強いほど、不適切な行動をとる可能性が高いと考えられる。
対人積極性	人に対する積極的な気持ち、人前に出ても臆することなく、自分の思いや考えをみんなの前で伝えたり、自分を表現したいという積極的な気持ちのこと。
向社会性	周りからほめられたり、報酬がもらえるから何かをするということではなく、そのような見返りがなくても、他人のために自発的に尽くしたいという気持ち。
攻撃性	いやなことや面白くなかったことがあった場合、物をたたき壊したり、言葉で相手をいじめたり、手がでたりといった攻撃的な行動に走る傾向。また、行動に現せないまでも、怒りや憎しみとか敬意をもつ程度も含まれる。これが高いほど、自他を傷つける行動をする可能性が高いといえる。

COACHING SYSTEMS

12

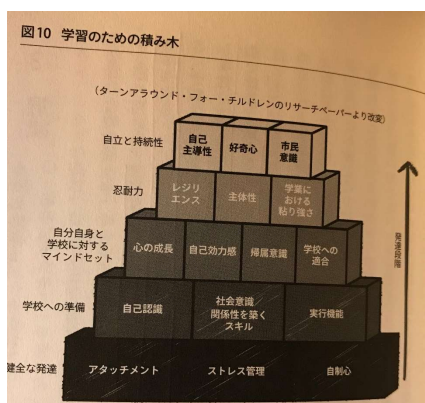
心理特性と学力、規範意識



共創コーチング

13

学習のための積み木



ターンアラウンド・フォー・チルドレンのリサーチペーパーより

COACHING SYSTEMS

14

スキル表出の背景

スキル

非認知・認知能力

心理特性

COACHING SYSTEMS

15

才能育成コースの心理特性

前 女子)	要 観 察	信頼性尺度 (信頼性)	回答不備件数	個性の理解							原因帰属	適応のタイプ			
				① 受 容 感	② 効 力 感	③ セルフ コントロール	④ 不安 傾向	⑤ 対人 積極性	⑥ 向 社会性	⑦ 攻 撃性		① 適 応 型	② 過 剰 適 応 型	③ 不 適 応 型	④ 不 確 定 型
翔 美 加 太 平	*	Q Q Q	1	★ ★ ★ ★	★ ○ ★ ★	★ ★ ★ ★	★ ○ ★ ○	★ ○ ★ ★	★ ★ ★ ★	★ ★ ★ ★	柔軟 内 内 外	柔軟 柔軟 内 内 内	☆ ☆ ☆ ☆		

16



パーソナルコーチング

目的：内省支援・感情支援・研究支援

取り組み内容：

半分は希望制、半分は誘う、パーソナルコーチングを1ヶ月に1回、1回30分、6ヶ月タームで6ヶ月に1回面談

取り組みの様子：それぞれ上がって成長している

17



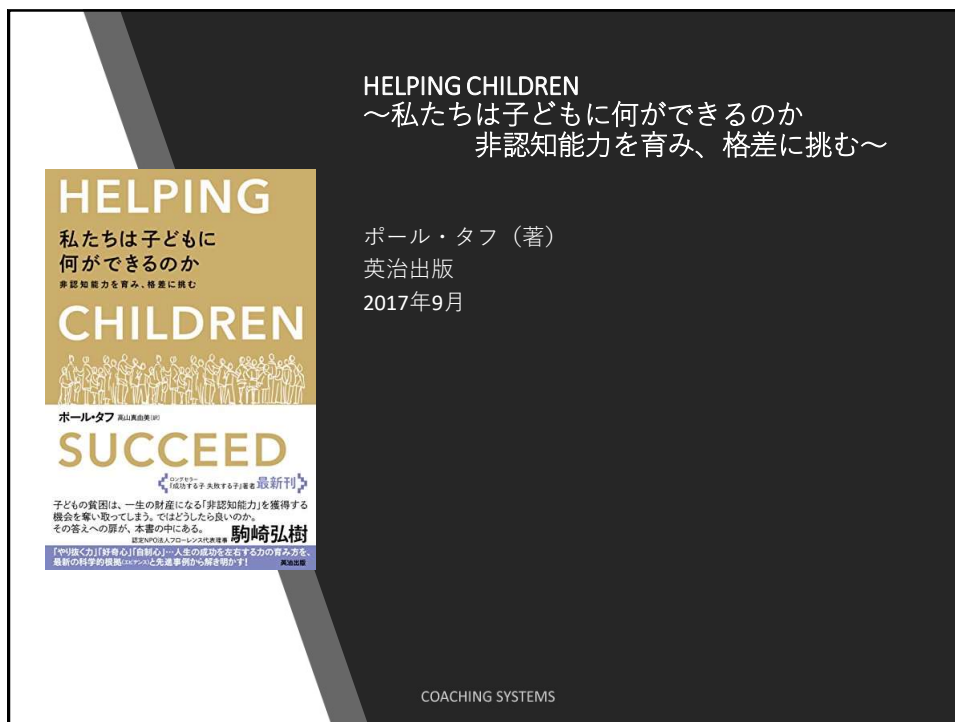
グループコーチング

目的：内省支援、感情支援、モチベーションの触発、グループのマインドセット醸成

取り組み内容：才能育成コース受講者に希望を募る。1グループ6名まで3時間、目標は何で現在のところまでどこまで行っていて、現在の課題は何か、これをみんなで一緒に解決して行く。

取り組みの様子：皆必ず、他の生徒の意見に刺激を受けて帰って行く。同じレベルで課題についてアドバイスし合うのは心に響き、モチベーションへの影響を与え合う機会になっているように思う。またここでの交流がIP-Uのマインドセット的なものが醸成されている可能性を感じる。

18



19

非認知能力を高めるマインド セット

- ・「非認知能力は教えることのできるスキルである」と考えるよりも、「非認知能力は子どもを取り巻く環境の産物である」と考えた方がより正確であり、有益でもある。
- ・生徒のグリットや粘り強さに直接働きかけることが、成績向上の効果的な手段になるというエビデンスはほとんどない。他の生徒よりも粘り強く作業をしたり、より強い自制を示したりする生徒ももちろんいるが、学校や教室の状況がポイントになる。効果的な学習を助長すれば、全ての生徒が粘り強さを見せるようになる。
- ・では、生徒に粘り強い行動をさせるにはどうしたらいいのか？ファリントンが調査から引き出した結論によれば「学業のため粘り強さを高める鍵は、自己認識である。マインドセット（心のありよう）」にまつまると、それらの姿勢や信念を抽出した。生徒たちの教室での頑張りにも大きく貢献する信念である。

①私はこの学校に所属している

②私の能力は努力によって伸びる

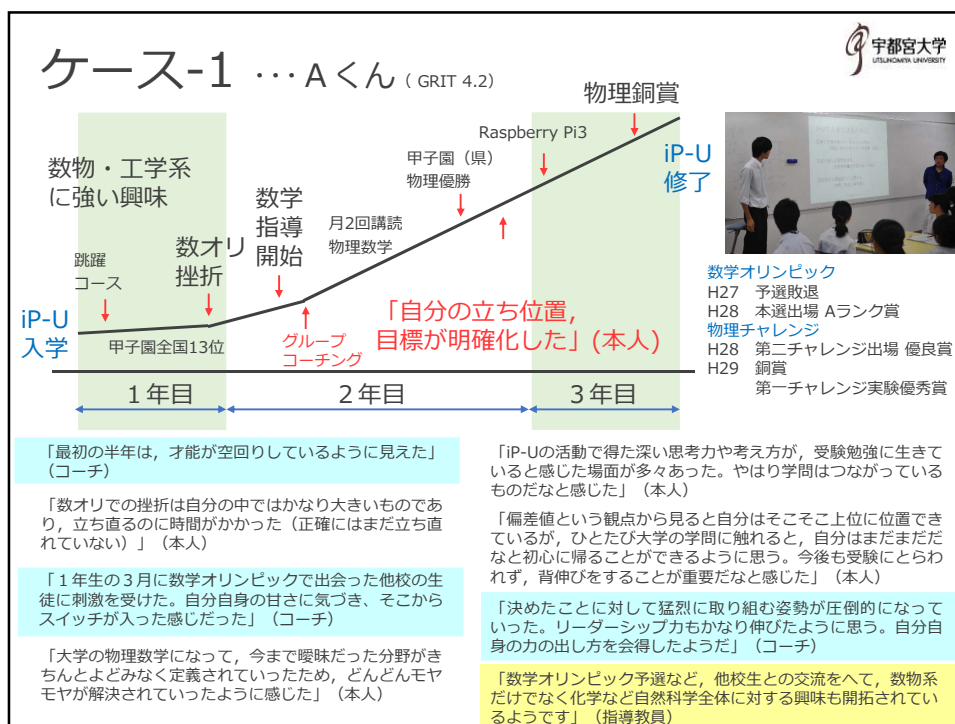
③私はこれを成功させることができる

④この勉強は私にとって価値がある

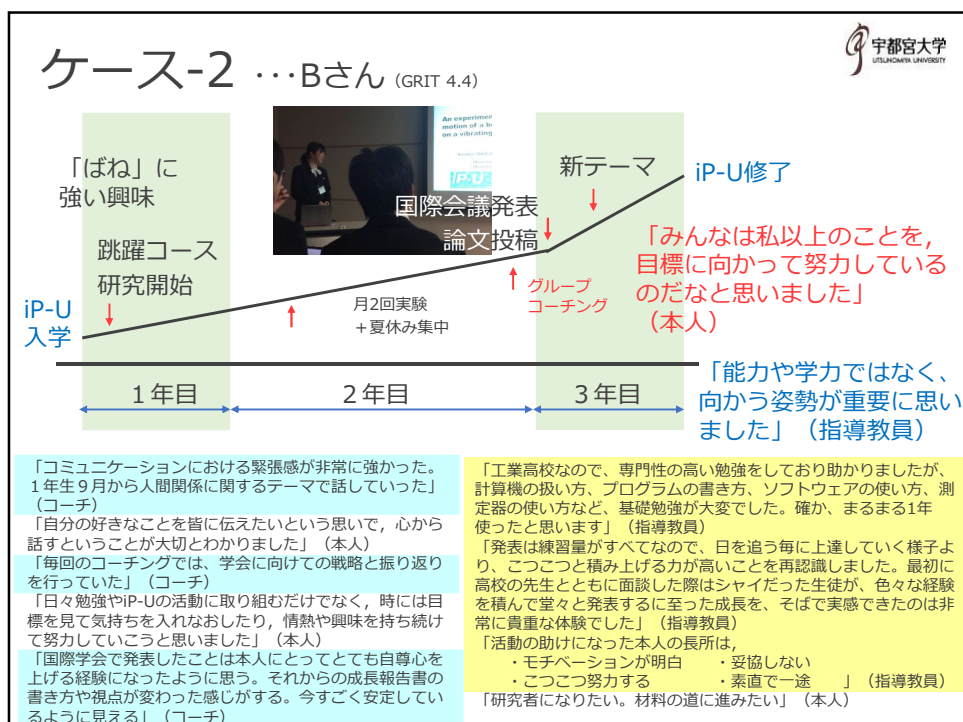
生徒たちがこの4つのマインドセットを持っていれば数ある困難も乗り越えられる

COACHING SYSTEMS

20



21



22

コーチング ……功を奏した指導法



「成長の角度を上げる」

1. 思考（ビジョン・進路）と感情（不安）の整理
2. 客観視による「気づき」や「決断」のサポート



修了生スクーリング（2017/03/11）でのグループコーチング

☆何が成長を引き出すのか（仮説）

「ビジョンと出会う」 ……

「悩みと向き合う」

「良い自己基盤がある」

成長の「場」をつくる。

- 自分の価値に沿った授業と出会ったとき
- すごい生徒に出会ったとき
- 仲間の意見を聞いたとき

ビジョンを見つけるために、大きな夢を書いた。他人に話し、肯定的に評価してもらった。より明確になった。そして、どうせ無理だろうと思っていたが、この夢を本当に叶えたいと思うようになった。

〔H29セルフコーチング入門
リフレクションシートより〕

23

③受講生の能力の傾向

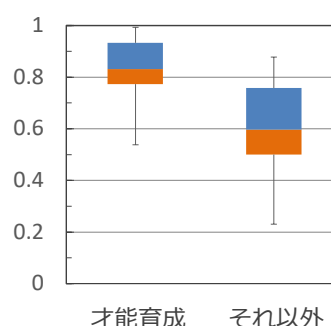


● 基盤プラン受講生（＝一次選抜後）

- ・ 前向き。必要以上に頑張っている（心理テスト(図書文化社"poem")より)
- ・ コミュニケーションが苦手（アクティブラーニングで練習）。
- ・ 特性は様々。成長の角度も様々。

● 才能育成プラン受講生（＝二次選抜後）

- ・ 振り返りが強い。
- ・ 目標意識が高い。
- ・ 基盤プラン受講時のビジョン＋執着力＋発想力の得点上位者が多い（H28）。
- ・ 二次選抜での面接評価と成果物評価（独立に実施）の結果がほぼ一致（H28）。



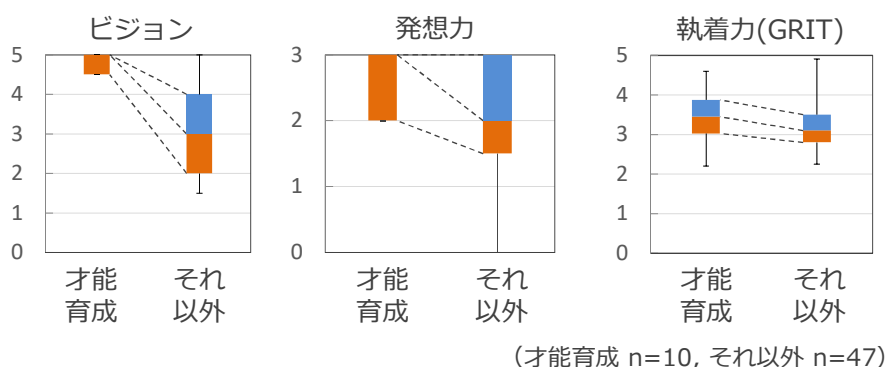
ビジョン、執着力、発想力の得点率の和（H28年度末）。才能育成 n=10, それ以外 n=47。

24

④受講生の能力の傾向



- 才能育成コース受講生は、3つの能力がいずれも高い（H28受講生）
 - ・ビジョン（未来創造力） ← 作文（3月）を評価
 - ・発想力 ← 作文+作図（10月末）を評価
 - ・GRIT（執着力） ← アンケート（3月）を集計
- 独立に実施した面接の評価結果と一致・・・基準の妥当性を示唆

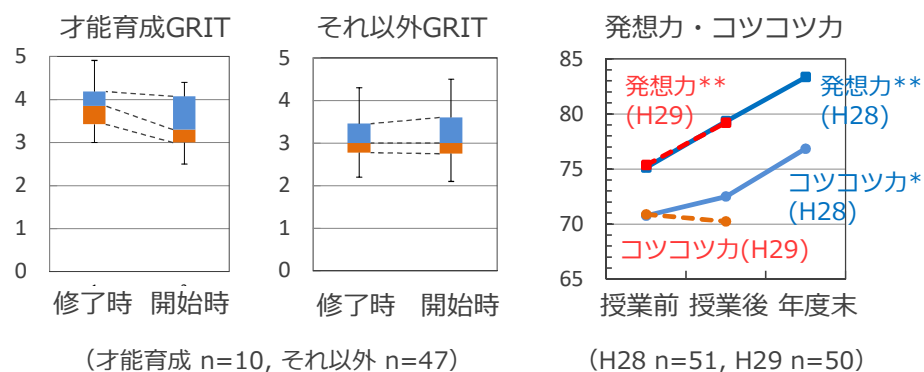


25

④受講生の能力の変容・伸長状況



- 才能育成コース受講生は、それ以外の受講生に比べ、基盤プラン受講期間中にGRITが伸びている（H28受講生の3月と8,10月を比較）
- 受講生全体で発想力が伸びている（H28, H29イノベーティブデザインの授業前後、およびH28年度末の研究倫理ワークショップ後でのアンケートによる）
- カリキュラムの有効性を示唆。



26

④受講生の能力の変容・伸長状況



現在までに示唆されていること

- 才能育成コース受講生は、「5つの基盤的能力」が高い。
- iP-Uのカリキュラムは、「5つの基盤的能力」を伸長させる上で有効。

現在の仮説

- 「5つの基盤的能力」を伸長させることは、傑出した科学技術人材の育成に有効。

今後の課題

- ・ 引き続き「5つの基盤的能力」の育成方法や、「場の形成」を工夫
- ・ データの取得と解析。調査方法やアンケート項目の妥当性を検討

